# 名木の保存について

**問**　町の有形文化財（天然記念物）のハルニレに，近年老化現象が著しく認められます。この由緒ある大樹を末長く残したいのですが，どのような対策がありましょうか。

（下川町　M生）

**答**　名木の保存については，ハルニレに限らず，あらゆる樹種に共通な点を理解する必要があろうかと存じます。

まず，「名木」とよばれる条件があります。古来から由緒・由来のあるもので，住民に親しまれ，敬愛されているものです。また，学術的に貴重なものもあります。開道100年記念事業の「北海道の名木・美林」（昭和43年９月刊行）では，イ）由緒・由来，ロ）樹齢，ハ）大きさ（樹高・樹形・枝張り），ニ）立地条件（場所・保護管理など），ホ）道民の敬愛度などを選定基準にあげています。参考までに名木の部の選定数は103件あり，その樹種別の内訳は次のようです。

| 針葉樹 | | | | 広葉樹 | |
|---|---|---|---|---|---|
| イチョウ | 6 | ドロノキ | 1 | サクラ類 | 7 |
| イチイ | 16 | ヤナギ類 | 3 | ウメ | 2 |
| アカエゾマツ | 2 | テウチグルミ | 1 | スモモ | 1 |
| カラマツ | 3 | クリ | 2 | リンゴ | 1 |
| グイマツ | 2 | カシワ | 4 | サイカチ | 1 |
| アカマツ | 6 | ミズナラ | 2 | トチノキ | 1 |
| クロマツ | 6 | ケヤキ | 3 | ツバキ | 1 |
| スギ | 10 | ハルニレ | 9 | ハリギリ（センノキ） | 2 |
| ヒノキ | 2 | ヤマグワ | 2 | ハシドイ | 1 |
| ミヤマビャクシン | 1 | カツラ | 4 | ヤチダモ | 1 |
| 小計 54 | | | | 小計 49 | |

次に，これらの名木の現状はどうなっているでしょうか。簡単にいえば，名木というのは老齢過熟木ということができます。立派だからと指定された時点で，既に老齢であり，幹の内部が腐朽していることが多いのです。しかも，天然生のものに限りますが，かつて森林内にあったものが，周囲の樹木を伐採され，裸地の孤立木とされて，環境条件が厳しくなっている場合が多くあります。寒風，乾燥などに直接さらされているのです。図－１は，名木の環境条件を模式化したものです。

さて，名木の保存には，２つの方法があります。その１は，その名木の延命をはかる方法です。たとえ老齢であっても，環境条件を改善すれば，さらに数10年ないし数100年間は生きつづけられると予想されます。つまり，カンフル剤を注入するような一時的な方法から，客土・金網マットなどによる根系の回復，そして，保護木を植えるような長期的な方法まで，いろい

ろな対策が考えられます。

その２は，さしき・つぎきのようなクローンにより，あるいは播種による次代の養成により新しい個体をつくっていく方法です。延命をはかりつつ，できるだけ早く次代を養成していくのが好ましいと考えられます（図－２）。

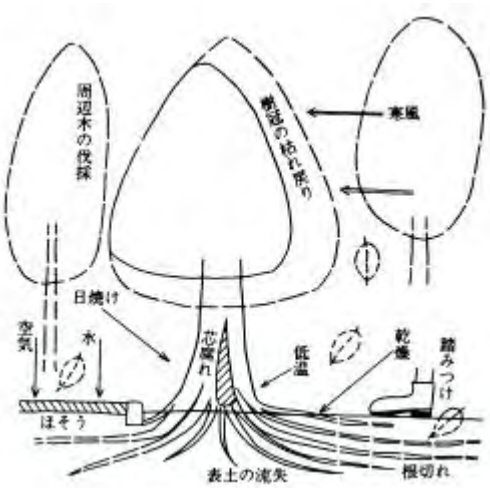
それでは，ハルニレについて，説明しましょう。

延命策としては，腐朽枝の切除き，ヤドリギの取除きなど，老樹の身体検査および外科手術を行い，また，踏みつけ対策としての客土・マット敷きなどを行うことが望まれます。こうすることによって，だんだん樹形が衰えていくとしても，数 10 年間は樹勢を維持できるでしょう。

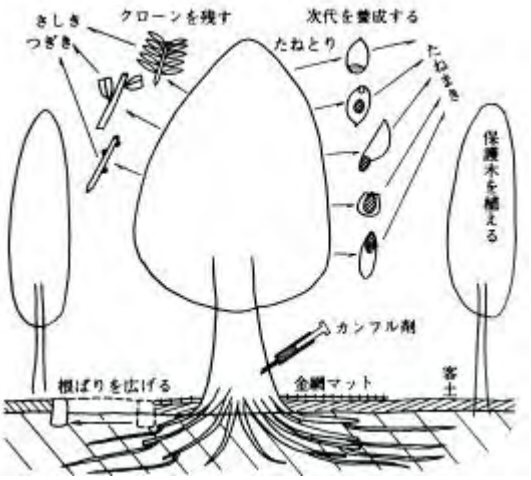
そして，樹木には寿命があり，萌芽更新を期待できない樹種ですから，また，さしき・つぎきがそれほど簡単でありませんから，たね播きによる実生つくりを１年でも早く－たねがなる樹勢のうちに－行うことが必要です。

ハルニレの苗木つくりで注意する点は，たね採り・たね播きの時期です。翼果は秋に熟すのではなく，晩春～初夏の５月下旬～６月上旬に熟します。これを採り，すぐに播きます（とりまき）。すると，すぐに発芽してきて，秋までに数 cm～数 10cm になります。3 年めの春に，名木の近くに定植できるでしょう。

（自然保護科　斎藤新一郎）




図－１　名木を取りまく環境の模式図




図－２ 名木の保存方法